様式-1-2

受付番号：22-a09

疫学研究・臨床研究に関する情報の公開について

研究課題名

気道異物による窒息に対する多施設前向き観察研究

研究計画

(1)背景・意義

厚生労働省発行の人口動態統計(2019)によれば、窒息による死亡者数は年間約 8000 件で、不慮の外因死の主要な位置を占めています。窒息による死亡者のほとんどは高齢者で、社会の高齢化に伴いさらなる増加が懸念されます。

現在、気道異物による窒息に対して、国際蘇生連絡委員会、米国心臓協会(AHA)、ヨーロッパ蘇生協議会、日本蘇生協議会のガイドラインはいずれも、腹部突き上げ法、胸部突き上げ法、背部叩打法の3つの応急手当を組み合わせて行うことを推奨しています。それぞれの処置の有効性や、腹部臓器損傷、縦隔気腫、腹部大動脈損傷などの合併症に関してはエビデンスが不足しています。したがって、どの手技をどの順番で何回ずつ行うなどの詳細についてはガイドラインでも言及されていません。

(2)目的

信頼できる窒息のデータベースを構築し、2025 年の蘇生ガイドライン改訂で新たなエビデンスを提供することを目的としています。

(3)方法 (①割付の有無 ②通常の診療範囲を超える医療行為の内容(侵襲性や試料採取等)について記載すること)

主にカルテ記載の内容を利用した観察研究であり、試料採取の必要もなく、患者への侵襲は最小限です。患者データは個人が特定できない形に匿名化し、プライバシーの保護に努めます。

個人情報の取り扱い

本研究の目的を達成するために必要な範囲を超えて診療録からの個人情報を取り扱いません。また、得られた情報は個人が特定されないように匿名化した上で、細心の注意を払い安全に管理します。
なお、本研究により得られる研究結果は個人が特定されることはない形でまとめます。

連絡先

金井　尚之
東京警察病院　救急科
東京都中野区中野 4 丁目 22-1
03-5343-5611